

摂南大学薬学部附属薬用植物園

所在地：〒573-0101 大阪府枚方市長尾峠町 45-1

TEL：072-866-3136

mail：p-yakuso@pharm.setsunan.ac.jp

URL：http://www.setsunan.ac.jp/~p-yakuso/

開園時間：9:00-16:00

休園日：大学の休日、別途ご案内する公開日以外は原則として非公開

植物園概要：摂南大学附属薬用植物園は標本園、温室、樹木園Ⅰ、樹木園Ⅱからなり、薬用植物をはじめ有用植物を栽培しています。特にモクレン科、ウマノスズクサ科、サトイモ科植物の収集を行っています。また近畿地方の絶滅危惧植物も積極的に集めています。

植物保全活動：年3回の一般公開のときや申込によるグループの見学の際には、そのときに見頃の絶滅危惧植物の実物や現状を説明する事により、啓発活動にも力を入れています。



絶滅危惧植物保全に関する摂南大学の取り組み

1. 絶滅危惧植物の収集

摂南大学薬学部附属薬用植物園では最初は絶滅危惧植物のうち、ウマノスズクサ科、サトイモ科などを収集し、生息域外保全を行うことを目指していた。しかし、地域の北河内自然愛好会、近畿植物同好会との協働で、絶滅危惧植物の保全に取り組む事になり、三重県と近畿地方で収集できる植物に範囲を広げて考える事になった。このエリアの中で、まだ収集されていない植物を選定し、それらの生育地についての情報収集を北河内自然愛好会と近畿植物同好会の会員の中で情報を持っている方々に協力してもらう形で進めた。特に詳しい情報のわからない種類については、花の時期や種類の特徴のよくわかる時期に出かけ、植物標本の採集、DNA 抽出サンプルの採集を行い、その生育範囲の特徴などを記録し、後日種子収集にふさわしい時期に再度出かけて種子を収集するというようにした。特に現在迄に日本の植物園で保有していない絶滅危惧植物の種類にカヤツリグサ科植物が多くあるので、その種子などの採

集を行った。また研究材料の収集や研究調査などに出かけた際には、その地域で見られる絶滅危惧植物にも注意をし、現在迄に入手していない種類については収集に務めた。どうしても種子収集が難しい場合は生植物を採集してきて栽培し、種子を採集した場合もある。また種子がなかなか採集できそうもない場合は挿し木用の枝の採集を行い、それを挿し木して育てる事とした。植物収集のときに種子が入手できた場合は種子保存拠点園になっている新宿御苑にデータを添えて送付した。

2. 絶滅危惧植物の生息域外保全

生息域外保全の手段として、生植物の形で保全するためには入手した植物を薬用植物園内で栽培する必要がある。樹木の場合には、生植物で入手した個体や種子から発芽した個体をうまく育てていけば、しばらくは消失や他の種類などとの交雑などを心配する事なく保全の状況が保たれる。しかし一年草や二年草などの草本植物の場

合、確実に栽培して行く為には、いくつかの注意を必要とするし、問題点が多いが解決を見いだしている種類は少ない。株分けによって栽培を継続する種類は少し楽である。そのような中で、分譲を受け栽培しているマツムラソウとミヤコジマソウについて状況を外略する。



マツムラソウ

どちらも平成 24 年の第 4 次レッドリストで絶滅危惧 IA (CR) に分類される種類である。マツムラソウの場合は花序につくムカゴが飛んで温室内の至る所に出現する。時にはアルミ製の棚やコンクリートの縁に少し苔が生えたり、土がたまったりした所からも生えている。小さく花の咲かない個体でもムカゴは出来てまた増える。この条件はある程度の湿度と温度が保たれる環境下と思われるが、その後よく生育した個体を無加温のフレーム（冬期は零度以下になる事もある）に入れておいたところ、その状況でも個体は温室内よりも大型化しムカゴによると思われる個体が次々に増えた。温室とフレーム内で非常に多くの個体があり開花しているが、今迄に完全な果実の形成は見えていない。戸外（冬期はマイナス 3〜5 度になることがある）でも生育は可能であるが、ムカゴからの新たな個体の出現は認められないようである。マツムラソウの自生地は見えていないが、台湾で見た人の話では現地よりも立派な個体になっているとのことであった。ミヤコジマソウについては小石川植物園などでも棚下などに一面に生育しているが、摂南大学でもよく生育し開花して、種子生産も行われている。宮古島の自生地はここにしかないという場所を 2009 年 8 月に調査

したが、本当に生育状況も悪く、個体数も少なく絶滅の危機に瀕している状況がよく理解できた。これらの種類は生息域外保全の状況では問題なく生育を続けて行けると思われる。



ミヤコジマソウ

3. 啓発活動

摂南大学薬学部附属薬用植物園の一般公開や希望者による見学の際には、開花や結実などの観察できる絶滅危惧植物については説明し、見学してもらう事で理解を深めてもらうように務めている。また毎年 10 月に開かれる枚方市健康医療福祉フェスティバルと 11 月に開かれる交野市文化祭には薬用植物展示を行うが、そのときに同時に絶滅危惧植物の展示も行っている。重要な薬用植物であるミシマサイコやキキョウなども絶滅危惧植物であるという事は一般の人にも驚きであるようだ。絶滅の危機にある植物への正しい理解と関心を持ってもらうことをこれからも心がけて行きたいと思っている。



枚方絶滅危惧植物展示

（邑田 裕子、2013 年 2 月）